
手招き

キミノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

手招き

【Nコード】

N5893A

【作者名】

キミノ

【あらすじ】

ツーリング先で首吊り死体と出会ったライダー、その後もツーリングに出かけるライダーだったが行く先々で霊に付きまといられる。そしてついに……。

出会い

バイクツーリング

それは

ボクの唯一の趣味。

これで体験したことを

あなただけにお話します。

いつかあなたも

同じ体験をするかもしれません。

昼食後、のどかな田園地帯の道を
のんびり走っていると

先ほどからパラパラと降っていた雨が
いきなり激しさを増しました。

道の前後にコンビニは勿論

雨宿りをする適当な場所も見当たりません。

カッパを着るにも

濡れながら荷物から取り出し、着るのもいやです。

仕方がないので先を急ぐことにしました。

すると

前方左側の道沿いに小屋のような物が見えてきました。
近づくと

屋根付待合所のあるバス停でした。

さっそくバイクを前に停めの中へ飛び込みました。
ヘルメットを脱ぐと

ななめ向かいにも同じようなバス停があるのに気づきました。
よく見ると永年の風雨によく耐え、立ってるのがやっとのこ
ちらとは違い

土砂降りの雨を通して快適そうだと判ります。

それに地元のお姉さんでしょうか

髪の毛の長い女性が、来なさい、来なさい、こっちへ、こっちへ
とさかんに

手招きしてます。

これはもう移動するしかありません。

傘代わりのヘルメットを被りなおし

喜び勇んで雨の壁を突き破って、向かいのバス停に駆け込み
ました。

すると

手招きしたお姉さんの変わりに

ボクを迎えてくれたのは

ブラブラゆれてる女性の首つり死体でした。

失敗

朝、目覚めると目の前に
ブラブラ揺れる女性の首吊り死体が・・・なんて夢もみなくなり
日々の生活の連続で
あの忌まわしい光景も
記憶のゴミ箱においやられたころ
それはまた・・・。

バイクツーリング
それは
ボクの唯一の趣味。
これで体験したことを
あなただけにお話します。
いつかあなたも
同じ体験をするかもしれません。

気がつくとそこにいました。
右サイドミラーに女性の顔が写ってます。
思わず後ろを確認しましたが寝袋などの荷物がのっただけで
す。

うつむいたその顔色は青白く、長い黒髪は逆立ってます。

停まってバイクを離れ、様子をみようと思いましたが
戻ってもまだミラーの中にいたら、いくら愛車でも
再びまたがる度胸はありません。

それにまだ日が高いとはいえ

交通量もなく携帯も圏外っぽい山中で

幽霊がミラーから抜け出てきたら・・・。

とにかく走り続けるしかないようです。
しかも

さつきからミラーの角度を変えようとするのですが
スロットルから右手、今は左手も恐怖のせいか固まって動かなくなりました。

もしかして

人を驚かし事故をおこさせる霊かもしれません。

運転に集中しようとして唐突に
顔の正体がわかりました。

と同じに

ミラーの中の

あのバス停の首吊り女性の顔が
目をむいて

キャハハハと声をあげて笑いました。

成功

快晴にめぐまれトラブルもなく
充実したツーリングの帰りでした。
渋滞の時間にはまだ早く
車はスムーズに流れ
めずらしく日が沈まないうちに
無事帰宅できるはずでした・・・。

バイクツーリング

それは

ボクの唯一の趣味。

これで体験したことを

あなただけにお話します

いつかあなたも

同じ体験をするかもしれません。

横断歩道の左側で信号待ちをしていた
赤いＴシャツの女の子には
交差点に入る前から気づいていました。

小学校３年生ぐらいでしょうか
歌でも口ずさんでいるのか

体を左右にゆらしています。

青信号を再確認し速度を落とさず
交差点に進入しました。

すると

何を思ったのか女の子がいきなり
横断歩道に飛び出しました。

フルブレーキをかけました。

後輪がロックしバイクはやや左に流れ停止しました。

両手で顔を覆いしゃがみ込んだ女の子が前輪の直前にいました。
ケガがないか慌ててバイクから降りようとする
と突然、女の子が両手をどけてボクを見上げました。

その顔は

あの首吊り女性の顔でした。

前回同様、目をむいてキャハハハと声を上げて笑いました。

気味の悪い笑い声を聞いて悟りました。

今回は、車のほとんど通らない山中の道ではなく
ひとケタの国道で流通の大動脈です。

前回のように転倒して軽い打撲で終わるはずがありません。

さつきから

自分の悲鳴だと思っていたのは
トラックのブレーキ音でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5893a/>

手招き

2010年10月28日06時06分発行